

区が考える全市的・広域的に検討を要する主な課題・問題点等について

(平成28年度24区取組み調査より)

A: 在宅医療・入院医療	
課題	
1) 医療資源の確保	
24時間体制で対応できる普遍的な体制の構築 支援病院等の確保	現段階で区として検討に至っておらず、全市的な取組みが必要
2) 区外・市外の医療機関との連携体制	
区外医療機関との広域的な連携について	入院先が当区以外の場合、眼科・皮膚科など区内の医療機関が非常に少ないなどの場合、隣接市・区との連携が必要
	区外の病院等からの在宅療養への移行にあたり、区外の病院MSWと在宅医療・介護連携支援コーディネーターとが円滑に連携できるよう、大阪市から各病院へ周知を行うなど全市的・広域的な取り組みが必要
	退院ルールは区単位でなく、市としての対応が必要
B: 区民	
課題	
全市レベルでの啓発事業も必要	在宅医療・介護連携の推進は全市的に取組むべきと考えるので、市民向けのリーフレットなどは局で一括して作成するほうが効率的
C: 庁内	
課題	
1) 実務者のスキルアップ(データ収集と課題抽出方法)	
資源把握した情報の共有方法	紙媒体での情報共有では更新や効果的な活用に限界がある。また、区を超えての連携も多く、ICT等を活用した全市的な情報共有のしくみの検討が必要
2) 健康局・福祉局の連携	
健康局・福祉局の連携強化	認知症関連事業との整理、統合